

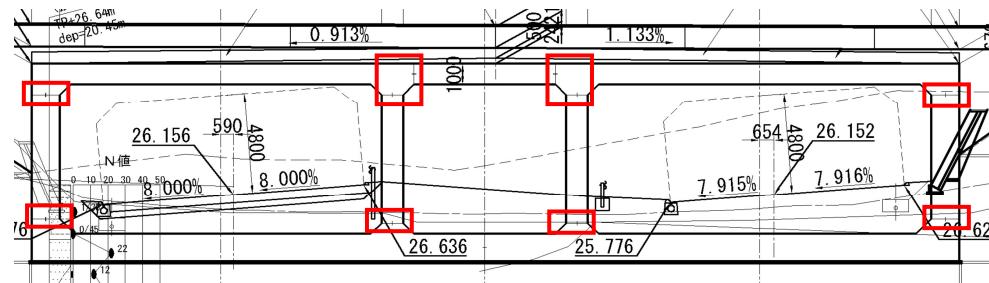
訂正箇所		正誤区分
特記仕様書 29頁 21-4-5 切土 補強土工		<p>(3) 施工</p> <p>切土補強土工 D 3 2 · L = 4. 0 m ~ L = 1 0. 0 m の施工は、共通仕様書 4 - 2 3 - 3 の規定によらず下記のとおりとする。</p> <p>1) 切土補強土工 D 3 2 · L = 4. 0 m ~ L = 1 0. 0 m の施工は、「土木施工管理要領」及び「設計・施工指針・同解説」の規定によるものとする。</p> <p>2) 切土補強土工 D 3 2 · L = 4. 0 m ~ L = 1 0. 0 m の施工は、のり面補強工 コンクリートパネル 1. 2 m × 1. 8 m × 0. 1 2 m、コンクリートパネル 0 ~ 1. 2 m × 1. 8 m × 0. 1 2 m と合わせてのり面最上段より施工（逆巻き施工）を行うものとする。</p>
誤		<p>(3) 施工</p> <p>切土補強土工 D 3 2 · L = 4. 0 m ~ L = 1 0. 0 m の施工は、共通仕様書 4 - 2 3 - 3 の規定によらず下記のとおりとする。</p> <p>1) 切土補強土工 D 3 2 · L = 4. 0 m ~ L = 1 0. 0 m の施工は、「土木施工管理要領」及び「設計・施工指針・同解説」の規定によるものとする。</p> <p>2) 切土補強土工 D 3 2 · L = 4. 0 m ~ L = 1 0. 0 m の施工は、のり面補強工 コンクリートパネル 1. 2 m × 1. 8 m × 0. 1 2 m、コンクリートパネル 0 ~ 1. 2 m × 1. 8 m × 0. 1 2 m と合わせてのり面最上段より施工（逆巻き施工）を行うものとする。</p> <p>3) 切土補強土工 D 3 2 · L = 4. 0 m ~ L = 1 0. 0 m の施工に伴い発生する汚排水の処分が必要となった場合は、監督員の指示に従うものとし、これに要する費用については、監督員と受注者で協議し定めるものとする。</p>
正		

訂正箇所	正誤区分
特記仕様書 63頁 21-21 のり面 補強工	<p>(4) 施工</p> <p>1)のり面補強工の施工は、「土木施工管理要領」及び「設計・施工指針・同解説」に基づき、行うものとする。</p> <p>2)のり面補強1段毎の逆巻で施工を行うものとする。その際、下段の施工に入る前に切土補強土工で施工するグラウト材について、所定の強度に達していることを確認しなければならない。</p> <p>3)切土補強土工の頭部固定を確実に行わなければならない。</p> <p>4)現地の地形、地質条件等により、設計条件に相違が生じる場合は、のり面補強工の構造や施工範囲等の変更を指示する場合がある。その場合、受注者は監督員の指示に従うものとし、これに要する費用については、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。また、基礎地盤や背面地山に湧水が発生し、壁面に影響を及ぼさないよう監督員が特別な排水処理等の指示をした場合、受注者はこれに従うものとし、これに要する費用については、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。</p> <div style="border: 2px solid red; height: 40px; margin-top: 10px;"></div>
誤	<p>(4) 施工</p> <p>1)のり面補強工の施工は、「土木施工管理要領」及び「設計・施工指針・同解説」に基づき、行うものとする。</p> <p>2)のり面補強1段毎の逆巻で施工を行うものとする。その際、下段の施工に入る前に切土補強土工で施工するグラウト材について、所定の強度に達していることを確認しなければならない。</p> <p>3)切土補強土工の頭部固定を確実に行わなければならない。</p> <p>4)現地の地形、地質条件等により、設計条件に相違が生じる場合は、のり面補強工の構造や施工範囲等の変更を指示する場合がある。その場合、受注者は監督員の指示に従うものとし、これに要する費用については、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。また、基礎地盤や背面地山に湧水が発生し、壁面に影響を及ぼさないよう監督員が特別な排水処理等の指示をした場合、受注者はこれに従うものとし、これに要する費用については、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。</p> <p>5)のり面補強工の施工に伴い発生する汚排水の処分が必要となった場合は、監督員の指示に従うものとし、これに要する費用については、監督員と受注者とで協議し定めるものとする。</p> <div style="border: 2px solid red; height: 40px; margin-top: 10px;"></div>

正誤区分

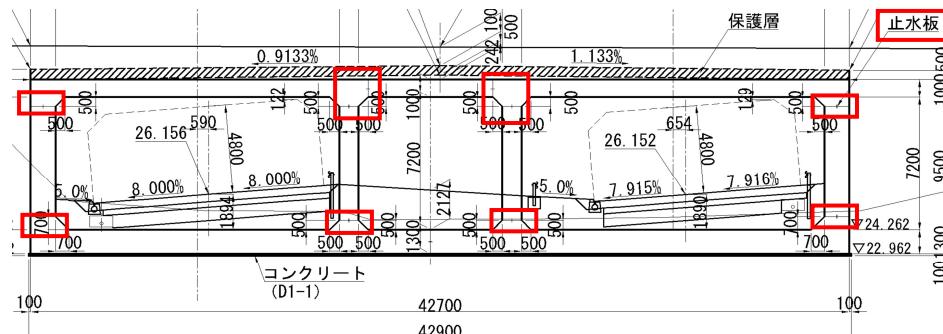
設計図
(函渠工)
55/82頁
本線第3号
BOX一般図

側面図



本体断面図 S=1:500

誤

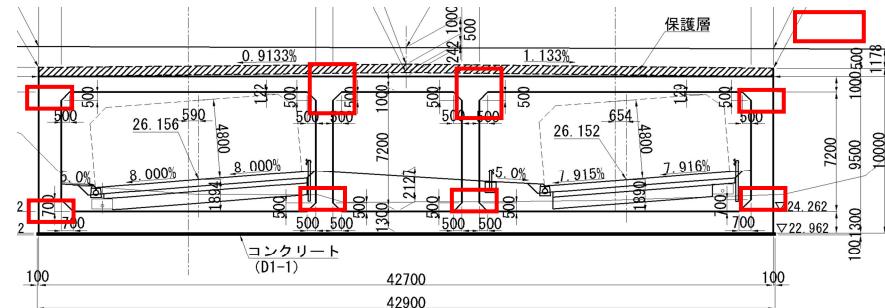


侧面圖

数量表						
項目	種別	単位	本体工	ウイング	壁高欄	合計
構造物削除	普通部	m3	2763.9			2763.9
総目工	止水板	m	128.7			128.7 総目工 I型
ばく落防止工	連續繊維シート	m2	758.5			758.5
地下排水工	Du-P-φ0.15-0.5-0.5	m	85.4			85.4

正

本体断面図 S=1:500



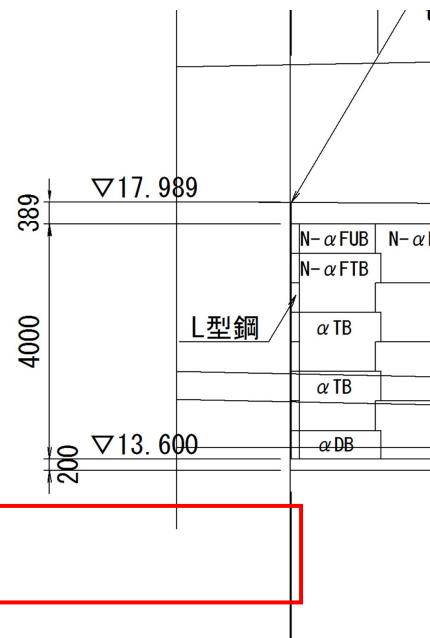
数 量 表

項目	種別	単位	本体工	ウイング	壁高欄	合計	摘要
構造物掘削	普通部	m ²	2762.0			2762.0	
はく落防止工	連続織維シート	m ²	758.5			758.5	
地下排水工	Du-P-φ0.15-0.5-0.5	m	85.4			85.4	

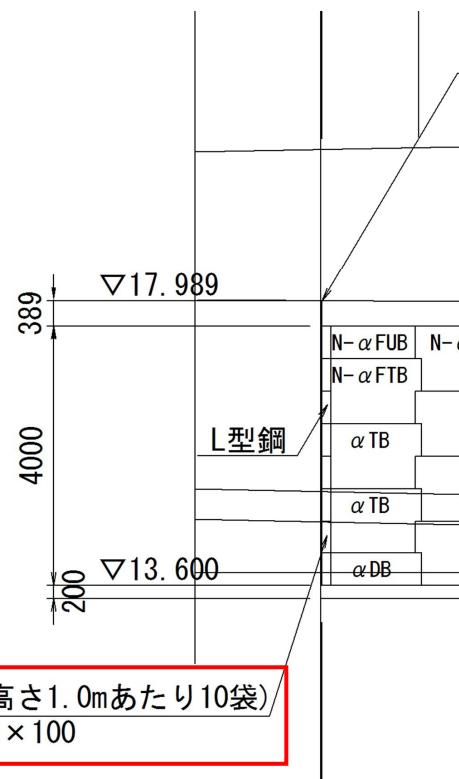
正誤区分

訂正箇所
設計図
(附帯工)
70/349頁
補強土壁工詳
細図(2)

誤



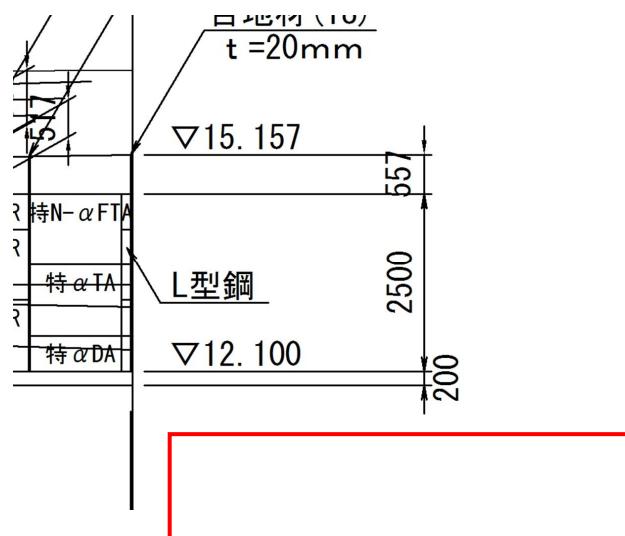
正



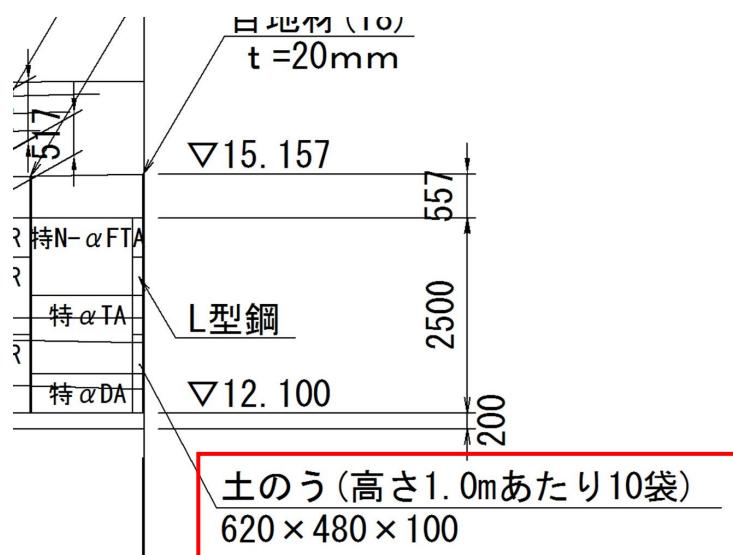
正誤区分

訂正箇所
設計図
(附帯工)
72/349頁
補強土壁工詳
細図(4)

誤



正



訂正箇所

正誤区分

設計図
(附帯工)
75/349頁
補強土壁工詳
細図(7)

材料表

565.2m²当り

名 称	規 格	数 量	単位	備 考
ホールド材固定アングル				
シングルコネクター用	60 × 105 × t4.5 × 32	4	個	
ダブルコネクター用	60 × 105 × t4.5 × 55	22	個	
	小 計	26	個	
基礎コンクリート	C2-1	11.8	m ³	
重力式基礎コンクリート	C2-1	18.1	m ³	
笠コンクリート	C2-1	42.0	m ³	
均しコンクリート	D1-1	9.6	m ³	
間詰コンクリート	D1-1	1.8	m ³	
型わく	D	274.9	m ²	
構造物裏込め工	裏込め工B	3907.4	m ³	道路掘削で計上
壁面材背面排水層	碎石 (C-40)	275.1	m ³	
基礎背面碎石	碎石 (RC-40)	17.6	m ³	重力式基礎部
鉄筋	D13 (SD345)	105.5	kg	
目地材	t=20mm	5.8	m ²	
	t=15mm	11.3	m ²	
地下排水工	Du-P φ 0.15-0.50-0.50	388.3	m	別途検測
基盤排水層	再生碎石 (RC-40)	452.6	m ³	
分離材	不織布t=1.5mm以上	951.5	m ²	基盤排水層上面

誤

材料表

565.2m²当り

名 称	規 格	数 量	単位	備 考
ホールド材固定アングル				
シングルコネクター用	60 × 105 × t4.5 × 32	4	個	
ダブルコネクター用	60 × 105 × t4.5 × 55	22	個	
	小 計	26	個	
基礎コンクリート	C2-1	11.8	m ³	
重力式基礎コンクリート	C2-1	18.1	m ³	
笠コンクリート	C2-1	42.0	m ³	
均しコンクリート	D1-1	9.6	m ³	
間詰コンクリート	D1-1	1.8	m ³	
型わく	D	274.9	m ²	
構造物裏込め工	裏込め工B	3907.4	m ³	道路掘削で計上
壁面材背面排水層	碎石 (C-40)	275.1	m ³	
基礎背面碎石	碎石 (RC-40)	17.6	m ³	重力式基礎部
鉄筋	D13 (SD345)	105.5	kg	
目地材	t=20mm	5.8	m ²	
	t=10mm	11.3	m ²	
地下排水工	Du-P φ 0.15-0.50-0.50	388.3	m	別途検測
基盤排水層	再生碎石 (RC-40)	452.6	m ³	
分離材	不織布t=1.5mm以上	951.5	m ²	基盤排水層上面

正

訂正箇所

金抜設計書
単価表
185

誤

185	12 - (6)	すり処理工 A 1	44,627	m ³
-----	-----------	--------------	--------	----------------

正

185	12 - (6)	すり処理工 A 1	44,638	m ³
-----	-----------	--------------	--------	----------------